

正改
増補
日本
麻子

二十卷				十卷			
周防	備後	備前	備前	石見	伯耆	但馬	丹波
丸長門	支安藝	上備中	一石作	三陽波	大か雲	上國備	一丹後
廿七	廿七	廿七	廿九	廿五	廿九	廿四	廿八

ル 3
960
11



門
號
卷

日本麻子卷第十一

山陰道八ヶ國之内

丹波國六郡中上國 四百廿

知行三下八万五千七十石

桑田 クワタ 船井 フナヰ 多紀 タキ 天田 アメタ

氷上 ヒカミ 何麻 イカヒカ

福地山之城 比高百四十二里

當國者信長之時明智日向守光秀領之其後大同末吉之時文輝季勝領之

天正九年之比 松原七郎在馬家

天正十一年九月卒去

小野木造之助

慶長五年ヨリ 八万石 有馬玄蕃以豐民

内二万石撰列有馬孫父法印領



地共元和七年後後之田米之所
五万石

元和七年ヨリ

同部内膳正長盛

寛永元年表濃大垣所之
四万五千石余

寛永元年ヨリ

稻葉淡路守紀通

慶安三年ヨリ

松平主殿次忠房

寛文九年肥前修原所之

當城主

寛文九年ヨリ

朽木民部少輔

○以條山之城

東海道百七十余
木名落日甲九重

前田主膳正

慶長十三年ヨリ

松平周防守康重

元和五年泉列岸和田所之

元和五年以後

松平信直守信吉

同

同山城守忠国

慶安三年備列明石所之

慶安三年ヨリ

松平若狭守康信

隱居之法名改別峯

同後河守典信

當城主

松平紀伊守作庸

同豊前守信慈

○龜山城

百二十八里

当城主信長之代明智日向守
元秀所居城也

本由德善院云

慶長十四年ヨリ

同於河正長盛

関東領共當代從公儀松平依
元和七年同国福地山所之

元和七年ヨリ

松平将監成重

寛永十一年ヨリ 四万七千石余
夏水織於正定芳

三万五千石
同右近美定昭
外三万石同氏敏中守配分之二

慶安元年ヨリ 四万五千石
松平信俊守忠晴

同
同信俊守忠昭

當墾 五万石 井上六和守
青山因幡守忠重

○薨^ツ 百三十二里

二万八千石
小出信徳守

○山家 百三十九里

五万石
後 播磨守
東海道百四十二里
仲仙々百五十三里

○漢部 百三十二里
同國津代官

六百石
小出忠兵衛 二百石
角余々々次

○出^ツ羊^モの神 桑田郡之

社凡五ヶ石別々 神宮寺
穂姫也ト云ク元明天皇との御宇
和銅元年に現ク一宮也國乃
一宮ト稱ス也

○大系神宮 桑田郡之

多社^ノ神^ノ社^ハ大^ニ系^ノ神^ノ宮^ノ神^ノ社^ハ
社^ハ凡^テ十^ヶ石^余

○下鴨宮 観音村之

○母上^ハ大^ニ系^ノ神^ノ社^ハ 多^ク記^ス郡^之也

多^ク社^ハ乃^ハ神^ノ社^ハ多^ク白^ク河^ノ神^ノ社^ハの^由也
上^ニと^スる^所也ト云ク

○藤村八幡宮 桑田郡之

社於五十石余

後三條院延久三年依勅勤法
奉行兼延といひり

○八幡宮

水上新
二十五石 八幡村に立

○水雄火の社

桑田村に立

此社の大の社清和天皇也
或ハ曰ク天皇の陵也ト云ク

○志宅権現

同郡に立

首山別志宅権現に法隆寺
又此号ありと云ク

○知乃の社

五十五石 水上新に立

○春日大の社

二十五石余 石川に立

此社の所神ハ神護景雲三
年常陸國麻佐より麻佐のり
て大和国三笠山より入りたり
龜山の院文永年中作宣のり
ありと云所ハ勅書ト云ク

○住吉神社

四十三石 飯倉村に立

此社考ハ孫列佐左の社四座
才一天照古社才ニ作の社
才ニ座心同男表筒中筒才四
社宮宮石と云り此社の所
社ト云道の町ト云所創設社
まひりありと云

○天田の社

二十五石 大田に立

陽成天皇乃所宇元慶元年
社建立之也夫名命の命也

○の社

十三石 吉原に立

○の社

十五石 水尾村に立

○山宗寺

水尾村に立

清和天皇の勅教ありと云所
是是夫大所乃作也

○法常寺

百石余 千ヶ畑に立

後水尾院寛永九年の秋建立
法皇御氣寺也用山佛頂國作



山陰道 八ヶ国

御家一本の寺

○禅法院 右同宗 五十三石 幸高郡之

○永澤寺

後小松院建之同山通紅寂
靈和尚ト云々

○本徳寺 四百三十石 龜山之

○元徳寺

元徳村之

村上天皇の御宇應和二年丹波
國元徳親音の後成ル并坊舎
立敷之宇治の城官号菩薩
親音堂南向五方四面也西國
三十三所外礼親音分二十番

○洞松庵

二百石曹洞宗 村之

○高雲院

二百石 右同宗 西之田之

○徳源寺

十八石右同宗 小之庄之

○西光寺

水上新之

○淨光院

早石淨土宗 中川村之

同基建之平也徳方ト云々本
寺行基の外弥勒佛也

○念佛院

為山之 寺从二十五石右同宗

寺御門院の御宇保室上人の建

○大念寺

十五石 右同宗 弘井之

○法花寺

毎山之 後寺御門の院此御宇日親上人
同基建之ト云々

○日山院

氷上郡 小村之

後法花院の御宇建之同基
日秀上人ト云々

同國中名所

○大石山

系より末のついで山徳道分れハ
北山と雖も色系より行経あり
余也西の林下に遊方とて宿を
しれどもとせり也あかしの里といふ
あり三十三所の観音とて遊
分より十八所西也観音の縁記
多劇佛摺の部には新古今
秋のうらみ

大石山よりあつ月の氣とて
名取田乃向はあつ月令

○生野

大石山よりあ丹後といふあり新
勅撰秋のうらみ

大石山よりあつ月令とて
いふ世とてとて書やとてん

○あ年山

梅山

あ年山のあつ月令とてあ年山
とてあ年山のあつ月令とて
梅山のあつ月令とてあ年山
とてあ年山のあつ月令とて

○村雲山

秋乃あ年山のあつ月令とて
秋乃あ年山のあつ月令とて

○雲岡村

千歳笑秋あつ月令とて
千歳笑秋あつ月令とて
千歳笑秋あつ月令とて

坂田山 切金山 笛吹山 入作山

桂山 善葉山 金谷山 鞍山

同国中名物出所之部

前胡 桔梗 茯苓 柴胡

款冬 似人參 薺 萱 似人參 似人參

椿灰 辛灰 三サキ 灰 蠟

松茸 又 獨活 林檎

木瓜 梨 鮫 山椒 實

鹿皮 龜山之
名物也

檜丸 山国より出づ是并カニ
知スルハヨサガ丸ト云

筆柿 弓張糸 弓削山の名物也
正月カサリニ用ク

和智系 煎糸 胡椒

父衣栗 多葉粉 野々村上
所より出づ

鞠木 萑部矢根 太布

佐伯砥 柏原黒 世に
墨と云

葉茶壺 山柞 同皮

山陰道八ヶ國之内

○丹後国五郡中上田魚二里

知行者 十一万二千石
如佐 与謝 丹後 斤野

熊野

○田邊之城 以多石 百四十五里

近代廢城 牧野佐治守 親成再
築城 法名云旨

天正十一年ヨリ 細川兵部大輔 藤
三万五千石

同 城中守 忠貞
京極 隆理 夫 高

同 飛騨守 之 仲

寛文八年以後 三万五千石内二千石加添
牧野佐治守 親成

當城主 同 周備守 英成

○宮津之城

山ノ下百四十九里三町

慶長五年ヨリ

十一万三千石余

東極丹後守之知

七万五千石

同丹後守高廣

外三万石五千石身依理天守三
毛万三千石余同主膳正配介之

寛文九年ヨリ

七万三千石余

永井右近奉天尚征

同信濃守

死去舎弟万之九新
知二万石彼下之

元禄十ヨリ

九万

奥平左膳六夫

○叢山

山ノ下ヨリ百五千里余

東極主高之

同国中神社并寺院部

○興作宮

興作部川本林ニ立

豊受大社宮の所事也雄畧
天保二十二年秋七月七日高社
乃所社と勢列度令部山田原

いづのー多れト云く高國宮

○浦嶋神社

高國野郡阿佐茂川の東

細中村ニ依之細中社ト云

俗ニ浦嶋左馬君社也ト云

浦嶋ノ高國の人實根見命の

後瀬越畧天保二十一年龍宮

に入三百四十八年と稱く淳和天

保行の天長二年に云く云

○奈具神社

又曰天避神社と稱く高國野郡

那丹波の郷に奉之

○宮津神社

宮津ニ立

大己貴神也彦名之命也後

冷也氷院永業五年九月社建之

佐直のりありて也

○九世天文珠列

海屋寺

新宮のりありて也高國野檀令の

記...のりとり堂、東、向、池
毎月十六日の辰時...の燈
...の世寅の...の仲より龍
燈を現...の堂の...
...の天燈...
一灯...の...
一灯...の...
...の...

○成相觀音 別名 施名山成相寺

○不動院 熊心部志

○海光寺 松根村志

○高福院 松根

○洞月庵 回中村志

○國分寺 中

同國中各所之部

○与附海 吹井浦

郡の名と附とあり其郡のら
に入海あり是と与作の入海
与作の海といふ其郡は浦
傍後探意の...
茶園白太政大臣

○内外海

○築作大山

まを辰立海ふるりの橋をわ
杉原うのふら乃大也

○天橋立

神代九世にありておあるる九
世うんもち也文珠の山所と
丹後の府よのありる也東西を
一里也南中六海也橋立の東より
三河より丹後ありゆり
南へ是と八海といふ橋立の磯
村と文珠堂乃ありりふみ
杉原あり

意海少人のこを名おのま
下杉原とるる天の橋立

○成相

成相の西一里ありあり
の海とありる眺る二数

○擺渡

擺渡 枯木橋 水は
水はとらふらうらぬ所也
浦渡とぬ書原色らと貝

古事本をぬ言

わりの箱のモリとハム

同國中各物出所之部
蒲黄 胡麻 葛 菟 撰糸

細 ツムキ 糸物用之世 モシユカイ 海根喰上七云
丹後糸物上云 切 文珠貝上云

伊祢浦船 翫 世丹後 老海龍

海龍 目指突 沖鴉集

又表海松 内壁苔 何守夫根

山法乃八ヶ国多門

○但馬國八郡中上国 東西二日

知行高十二万三九百六石

朝来 粮父 志石 気田

城傍 二方 七夫 美合

○出石之城 石より百四九里

城主之次第

羽柴義隆守秀長
後号天和八州言

前野但馬守長康

文祿四年ヨリ

五万石
小出天和守吉政

後備
内事石三万大隅守配分但慶
長九年小幡守秀政平去後
攝列核 岸和田

三万石
同右京太吉英

後号

父天和吉政核岸和田以後君
當城三万石順之慶長十八年
吉政在去後主是英核岸和田

慶長十八年

同信濃守吉親

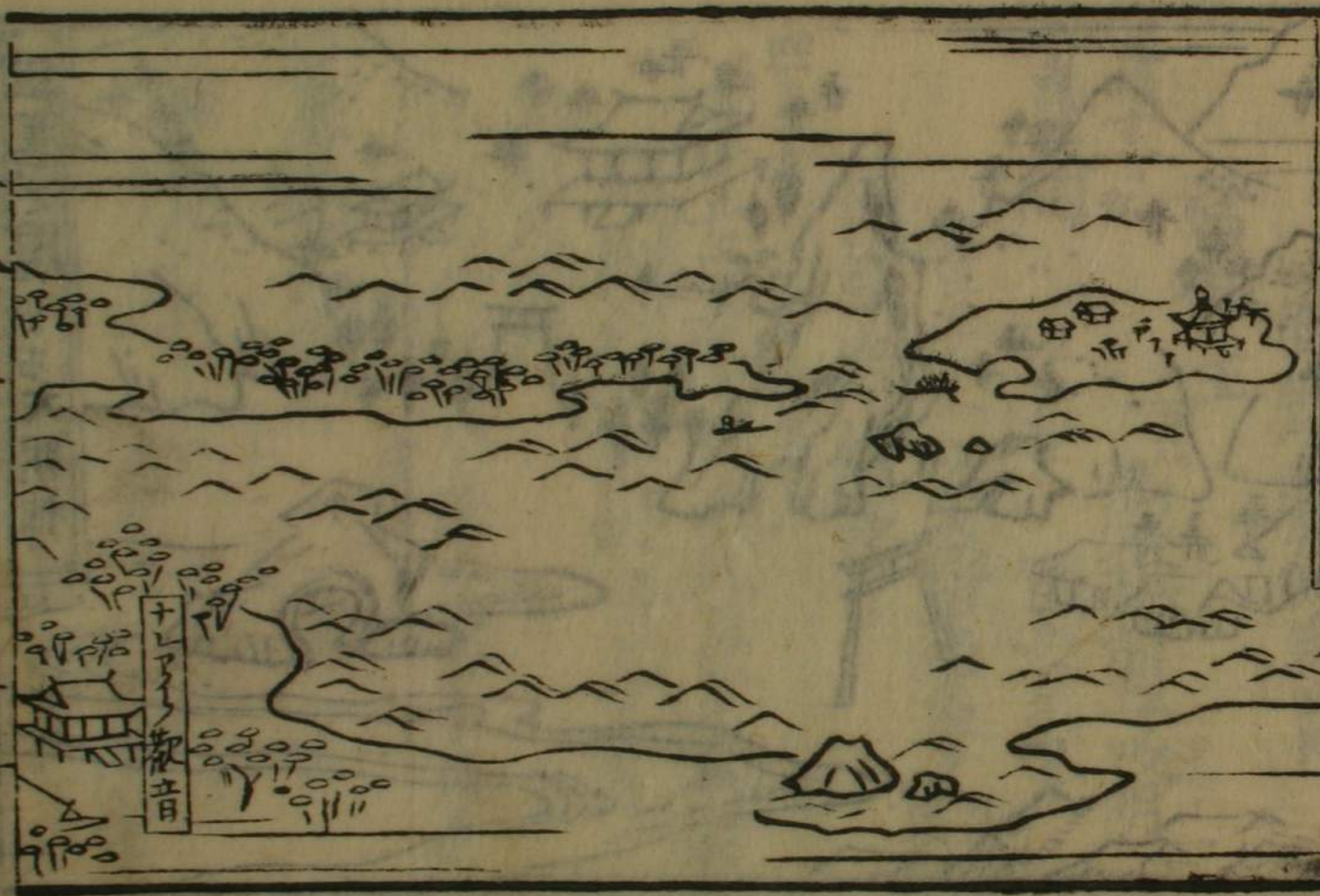
元和五改出石核丹波園色

元和五年ヨリ

同大和守吉英

同修理亮士量

丹後之國 切玉文珠



但馬之國 出石大明神



外千石死身官内同主殿千石
同後殿分配分但新田共

富城主

六五〇
仙名越前守政明

元禄丁巳

○豊岡

一〇五十二里

二万五千石 系松田将守 高栄

同國所代宿

四百石

四百五十石

浦井七島右衛門 由比長左衛門村

同國神社之部并寺院

○出石大明神

此社の所祀ハ彦彦彦出見神社ハ
一ノ宮也

○康徳大明神

西条三立

三十二石

○妙見

三十二石

大昌村

常澤寺

此社乃所祀ハ星の社北辰也

○女代の神 城傍部立

○小村権現 朝来部 小村立

○美福院 四十二石 別為神宮寺 山傍村立

○観音寺 三十石 真言宗 二ノノ立

○法養院 二十五石 右向宗 川尻村立

○大雲寺 四十石 曹洞宗 出石立

○自林庵 二十石 右向宗 磯巻村立

○万松院 十五石 右向宗 小嶋立

○徳源寺 十五石 右向宗 朝来部立

○妙法院 十五石 右向宗 豊島立

○西方寺 一向宗 吉原村立
天正年中根葉氏建立とのり
立向山日朗上人号日朗山

同国中名所之部

○朝来山 秋の色にあそぶ山は度綿
名所のちねはまはるは山

○二見浦 佐海に同名あり
古今蘇のうらみ急捕

○吾の白溪 徳島川
但るある吾の白溪法をハ
あひのめと人のふらん

○又作乃里 但るある乃里の里はうら
まはる人といふくあくるん

○出石乃宮

社乃於よりくわりの
らるるの宮乃社乃約
人子よりちやんるるの

同國中名物出所之類

少人參 コニシシ 芍藥 ヤクヤク 葵連 アヲレニ 白木 ヒタキ

粒米 ツグミ 苳 アカチ 干蕨 ホシワケ 同繩 ナワ

箒 ハキ 糸 イト 綿 ワタ 苧 ヲ 柳 ヤナギ 菴履 コリ

温石 ユニシタ 銀 ギン 鷹 タカ 車牛 クルマウシ 朝倉 アサクラ 山椒 セリ

出石 イシ 諸磯 モロイソ 砥 ト

山陰道八ヶ国之内

○因幡國七郡中ノ國南小三日

知行字十三万千六百四十石

法泉 フツ 八上 ヤチノヘ 智頭 チツ 邑表 ウラヒ

氣田 キタ 巨濃 キツ

○鳥取之城 山陰道百十里

當国者性古毛利家領之

城主之次弟

五万石 宮部善伴坊

六万五千石 池田備中守

池田左衛門輝政

同備中守長景

元和三年備中松山工所ノ

三十三万石 松平親太郎光政

寛永九年備前松山工所ノ

三十三万石 松平相模守光徳

當城主 三十三万石 松平右衛門督

右内三万五千石 松平左衛門吉泰

同國中社并寺院記

○宇陀神宮 ラハルンシラ 法次郎云

此社の社体武内宿禰の灵社とまゐる所ありと云ふ國郡一宮ありト云く

○和理の社 八上郡云

社凡二千五石

多社に後田氏の命此處跡あり景行天皇の御宇に建之下り

○姫神の社 ヒメカミ 田中村云

社凡四百石余

此社に後坊外宮御同社ト云く

○八幡宮 鳥取云

社凡五千五石余

此社に其意本國に作八幡と勅活の所也其後毛利氏建之下云

○春日の社 同所云

社凡二千石

○松尾の社 松尾村云

社凡十五石

○神宮寺 鳥取云

寺凡千石余 其言家

○北石権現 湯下云

此社ハ山嶽國巨名の社と勅活すの所也ト云く

○東照權現 吾田云

毎年九月十七日祭 齋行あり

○龍峯寺 三石云

後光徳院の御宇 隆元禪師

○圓庵一休寺 圓庵云

此所一休和尚住居の地也ト云

○洞禅院 廣砂村云

寺凡二千石 曹洞宗

○德源寺

寺在千五百石右向家

氣田之

○龍泉院

寺在千石右向家

梅傍之

○不動院

寺在十五石右向家

中修村之

○隆法寺

推古天皇十五年建之西國推古

法興郡之

○正福寺一向宗

田川之

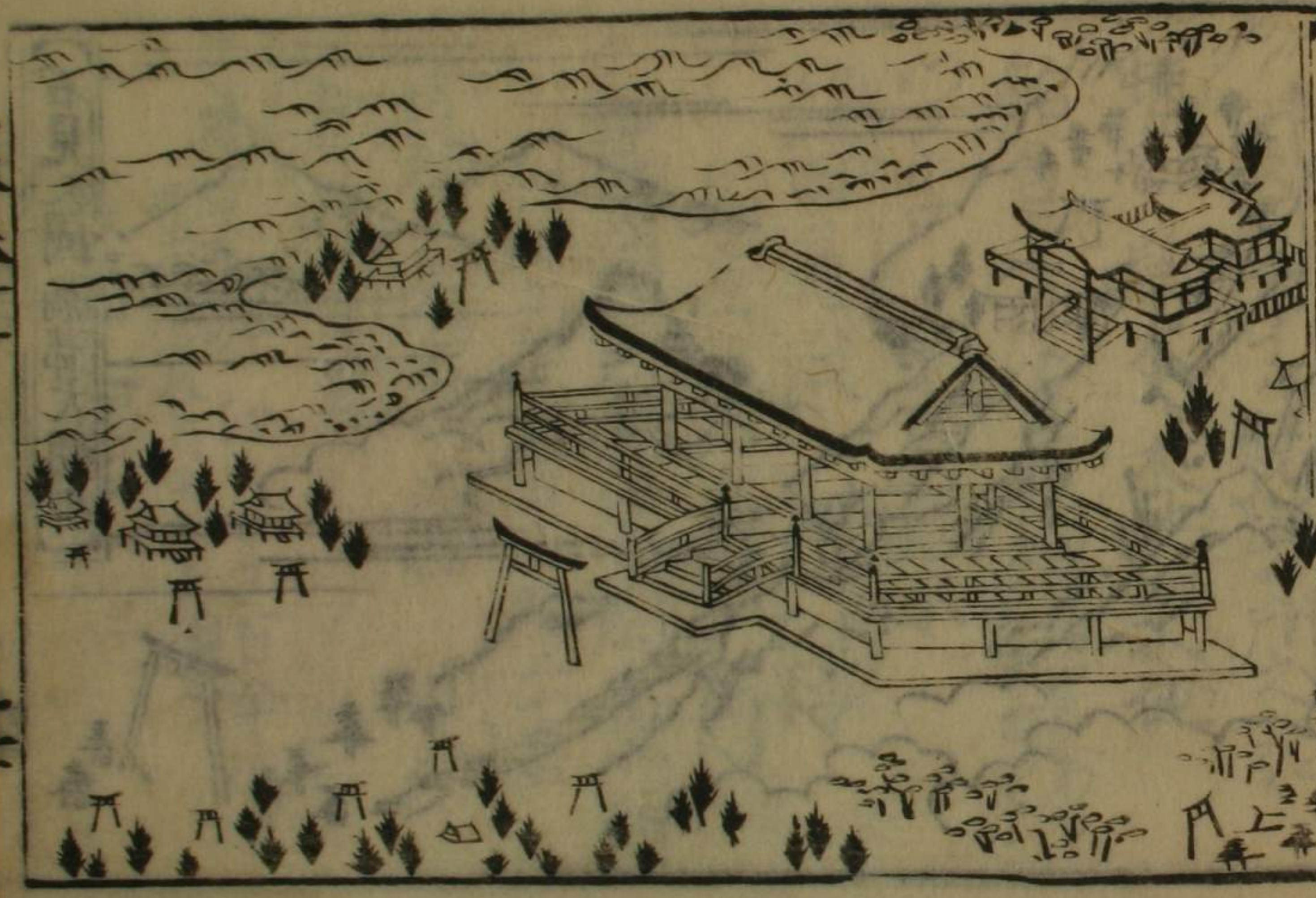
同國中名所之部

南國公名所之部

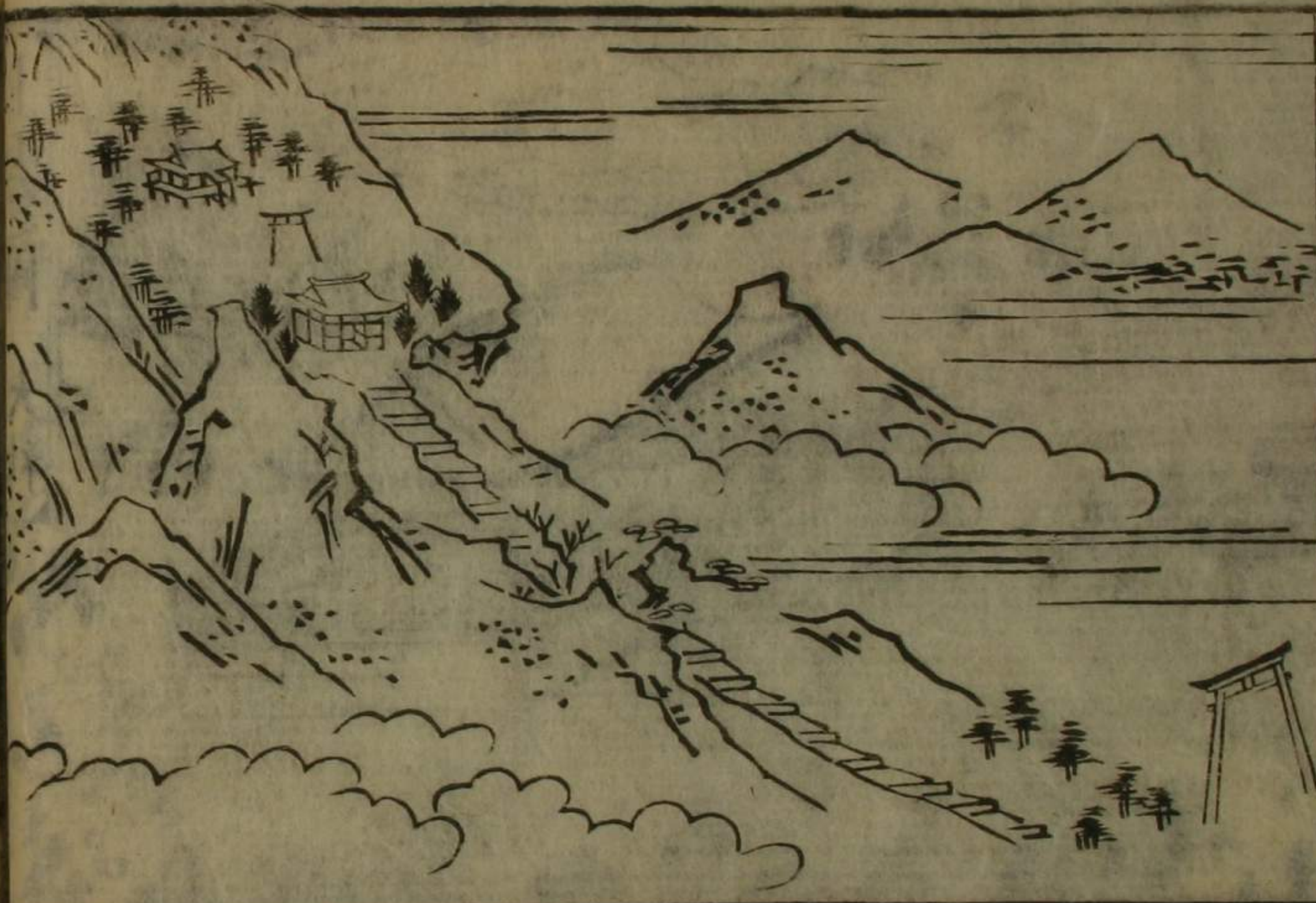
○田播山

又田播山同名ありある國狀を
振ふ所の里とあり建保甲首
に田播山と記すといふなり

出雲之國 大社



石見之國物部大明神



村有松竹之野出所之松

蠟サロ 鞆木サカ 木地キヂ 宋地ソウヂ

鮎アノ 白干シラホ 海素麵ウミソウメン 海中ウミナカ 丸マ

心ココロ 字ジ 家興イセキ 摺系ズケ

列田ヒキタ 鼻紙ハナシ 細川ホソガハ 梅ウメ

山法ヤマホウ 以ヨリ 少シウ 園エン 之ノ 内ウチ

伯耆國六郡中之國南ヲ 指サシ

知行高十七万五千二十三石

河村カハムラ 久米クメ 八幡ヤハタ 汗入アサリ

會見キミミ 日野ヒノ

米コメ 子之シ 城シロ 江戸エド 有アリ 百半ヒヤクナハ 三里サンリ

赤田國古姓古毛利氏領之

城主之次男

加藤元正自纂

元和三年ヨリ

松平新大將先攻

寛永九年

松平相摸守先仲

因列島取工所アリ

當城主

同 右衛門督

細清家臣預之

荒尾但馬

同國中社并寺院大槻

倭之大内社

五十石余

河村那之

此社乃所社ハ下照姫乃社の
島跡より今尚國の一宮也ト云々

大知の社

大山

社於三千石天名宗小守ラハ
大山於現より大己貴命乃
萬石ト云々祭四月廿四日也

八幡大神

三十石

八幡那之

若宮権現

十五石 會見之立

富士権現

三十石余

依傍之立

神宮寺

四十石

河村那之

親善院

十五石

日野之立

大久寺

此寺ハ親善和尙の任所也
和尙下野國和波社に
敷生石といひり今國人の
どのよりかひを後高寺より
ゆひく遷祀ありといひり
血ありといひり今つたて
此寺の室物アリあり

善松院

二十石

久米之立

同國中社并名所形也

名考
名考はかゝるはつり
今このつりは所
回國中名物出所部

鐵テツ 熊膽クマノノミ 黒毛クロモ 厚アツク

厚アツク 厚アツク 厚アツク

与伝道八ヶ園之内

○出雲國十二郡大上國東西二日半

知行萬二千二百七十七石

意イイ 鴉カ 鴉カ 秋麻アキマ

指ササ 出雲イツモ 神門カミド 板石イタシ

仁多ニタ 大系オホケイ

○松江之城 約白里二百六里 富國者住古毛利家服之

城主之少才

慶長五年ヨリ 松尾公之守忠氏

同山城守忠晴

寛永十一年ヨリ 京極守忠高

寛永十五年以後 松平出羽守直政

出雲國大岡本庄 同守高也 但隱岐國ノ餘

同出羽守宣澄

外三方石 同右也 大隆政親

當城主

同 元カ

○廣瀨 三万石 松平集人正直

同國中神社并諸堂寺院記

○キツ并築大御社 林門部 并築赤村之

社并千石 社務 西國遠

右之外千家小嶋并福之六、
南社大御社ハ三ヶ所並為之、其處
依として中國の一宮也、昔六宮
殿の事、二十二年今城、
也、故造管後深等元の、
元年八月元五目に建之、
大社、

○大心神社

○さくさ神社

右大社の所、并ハ、
乃る、
八ヶ所、

○御宗社社八六百石

此社の所、并ハ、
千間天神

此社の所、并ハ、
村間、

○若宮御社

此社の所、并ハ、
勅修、
寛永、
信列、

○作太御社

此社の所、并ハ、
依、
并の、

○八幡宮二十石余 夫野村

○東照宮 意之部

○土作天社 土作村

○月照寺 外中系

○拍言教寺 寺所

○鷲岡寺

枕木山に在

此所武甕坊を廢蘇生(セウセイ)の地也并慶(ケイ)自(ジ)身(シ)堂(ドウ)に在る石(イシ)に書(カキ)し題(チ)自(ジ)身(シ)寺(ジ)の室(シヤウ)物(モノ)なり今(イマ)の

○長園寺

持葉村に在

ハコノ正(マサ)ムン(ムン)と云

○天徳寺

禪宗 松山に在

○長福寺

大系に在

○大林庵

右同宗 小徳に在

○徳雲院

右同宗 野白に在

○清水寺

山中に在

ハコノ千(チ)手(テ)親(シン)者(シャ)ト(ト)同(ト)元(ゲン)年(ネン)に(ニ)建(タテ)之(シ)ト云(ク)

同国中名所文部

○出雲宮

八重(ヤエ)山(ヤマ)の(ノ)出(デ)雲(ウン)宮(ミヤ)の(ノ)事(コト)ハ

○平間

さう大(オホ)と云(ク)の(ノ)事(コト)ハ八(ヤチ)重(ヘ)山(ヤマ)の(ノ)事(コト)ハ

○依大浦

世(セ)也(ヤ)の(ノ)依(ヨ)依(ヨ)の(ノ)村(ムラ)ありきなり系(ケイ)地(チ)なり

○杵築

○所傳

昔(ムカシ)の(ノ)是(コト)の(ノ)特(トク)命(メイ)名(ナ)と云(ク)大(オホ)念(ネン)ありきか所(トコロ)傳(デン)傳(デン)たり石(イシ)名(ナ)云(ク)多(オホ)くわ(ワ)い(イ)と云(ク)り

○水江

吉野(ヨシノ)川(カハ) 美(ミ)山(ヤマ) 枕木(マキキ)山(ヤマ)

○捐造里

塩治

名(ナ)所(トコロ)の(ノ)事(コト)ハ所(トコロ)計(ケイ)門(カド)郡(ノ)の(ノ)事(コト)ハ塩(シホ)治(ヂ)村(ムラ)の(ノ)事(コト)ハ所(トコロ)計(ケイ)門(カド)郡(ノ)の(ノ)事(コト)ハ石(イシ)塔(トウ)あり

同国中名物出所文部

津和野城 長白リ二百四十七
當国者往古毛利家領之
代々城主

元和三年ヨリ 四万三千石龜井武藏守男之
龜井普景守政
四万石 同 徳之守政
外三千石分自右衛門配分之

當城主 同 隠岐守

○溪田之城 長白リ二百四十七
代々城主

元和五年ヨリ 五万四千石余
古田大徳太夫重治
元和九年 隠居

慶安三年 五万石余
同兵部 松平固防守

同國所代官 由比長兵衛

○物於神社 安芸郡
為社乃御社八宇摩古間知命
乃之岳迄としてある國の二宮之

○霹靂神社 雨摩郡
迹辭姫の社 那賀

○八幡宮 濱田
不動院 松川村

○大勝寺 右門宗 安徳
寺以 本寺不動の尊像行基并
作之

○梅月院 依傍
寺以百石余 禪宗

○法親寺 つこの
ある寺は伏見院の所了日常上人
同基

同國中名所

○石貝跡
浮わりの石貝川後の山より拾遺
表の奇り

ほきねん人まのきり石をさ
うみそふ記あるひらり

○三角山

人丸の古法あり社をさく西向の
所こころとく松じくくそそ砂
乃吹上山あり

石貝うさほのねれまらり
ほ世の舟とそをえわらり

○馬山 屋代山

あると云名所あり於き交のこ
れ石知漢人
るけやれり馬山の町を

比礼振券

石んあうさ律乃後記
ひれあう旅とさる月け

同國中名物

黒白之其石 ナクヒバクノゴイシ 折友 シキ

白蜜 ハクミツ 防風 ハラクフウ 楹柱 ケマキハシラ 銀 ギン

錫 スガ 鉦 ナミリ

同國後田々安藤園

廣徳工 八道村

後田より 今市工 四リ

今市より 市木工 四リ

市木より 中山工 四リ

中山より 本池工 三リ

本池より 八工 四リ

大なり 廣野エ四リ

山陰道八ヶ國之内

隠岐國郡小下國界二日

知行高き万千八百石

知夫 海部 周吉 秘地

山陰 伊予 百十七リ

同國中神社 英寺院

○由良比安天御神 知夫郡

高社乃所神ハ須勢利姫乃

高社乃所神ハ須勢利姫乃

○離火持現 わまふ郡

海より年々社之も國より出

永すらん永長ま守高社より

乃所美くト云く

○後鳥羽神社 本郷

高社乃所神ハ後鳥羽院

○観音院 飯山

親鸞上人開基之本寺則之

乃作千石親善之今志言宗

○海雲寺 智茂

寺从平五石禅宗

○松月庵 周吉郡 中村之

○阿弥陀寺

天武天皇の御宇白鳳年中

草創なり同基古道寺大伴

同国中名所

○ツハミカダケ 報ヶ山

海をこ知夫乃那のうらなをこ
りや火の所さあすんた
流れたるのさげありたり

○コト 浪伎の海 小徳と云

波ありありあり小徳の
久しくあわさるすしく

○マツ 松山 三徳ありと云名所あり

同国中名物

和布 クシハヒ 串鮑 スルメ 鰯 アサギ 海馬

灯松 トモシロ 桐板 キリイタ 榎板 エノイタ 栗板 クリイタ

日本麻子巻 第十二

山陽道分國之内

播磨石田郡本上国四方三目半

伊豆 イナ 負太 イナ 伊豆 イナ 伊豆 イナ

飾磨 シカマ 榎保 エノホ 赤後 アカノチ 作羽 ササノ

完栗 ツクシ 神崎 カミサキ 多河 タカ 多河 タカ 多河 タカ

揖西 イツサイ 揖東 イツトウ

知行より五十二万二千三百石

○ヒメ 姫路之城 江戸ヨリ百廿七里

當城ハ天正九年春大岡未ウ吉
篠原之為居城其後

木下右衛門大延俊

五千二百石

慶長五年 池田三左衛門輝政

同之

松平長茂守利隆

但才石見守輝澄在宗大吏
政綱右近大夫輝真共三嫡
新太師代身取之所替也

元和三年ヨリ 本多安房守忠政

外十方石嫡子中務太浦忠利
五方石次男甲斐守政躬領之

寛永十六年ヨリ 松平下総守清匡
十八方石
十五方石

同 下総守清良

慶安元年 山羽山形所替
十五方石
慶安元年ヨリ 松平大和守直基

同 大和守直基

同二年ヨリ 松平式部大浦忠次
十五方石

十五方石 榑原式部大浦政房

寛文七年 松平大和守直基
十五方石 榑原式部大浦政房

當城主 榑原式部大浦政房

〇の石之城 江戸ヨリ 百四十里余

慶長五年ヨリ 池田輝政 持分
十五方石 利隆

元和三年ヨリ 出雲守石太志貞
十五方石 其代以公役築城

寛永十年ヨリ 松平丹波守康直
十五方石

同 丹波守長重

寛永十六年 岩倉加納所替
七方石 太左保加納守忠季

同十六年ヨリ 慶安二年 肥前守清
七方石 松平山城守忠国

六万五千石

松平日向守信之

外五千石、中志二名信重配分
延宝七年大和郡山、所督

延宝七年ヨリ本多忠雲が政利

當城主

六万石

松平左兵衛佐直常

○赤穂之城 江戸ヨリ百五十里余

城主之次男

松平右衛門太夫政綱

二万五千石

寛永四年ヨリ 松平右衛門太夫輝典

五万二千石

正保三年以後 浅野内近江長直

此代新城

五万石 曰宋女正長女

外三千石、内記新田三千石、
曰長三郎配分

浅野内近江

當城主

森和泉守長直

永井伊賀守

○立野 江戸ヨリ百六十里余

五万二千石 服部淡路守安照

○林田 江戸ヨリ百五十五里

一万石 建部主計政周

○小野 江戸ヨリ百七十七里

一萬石 一柳對馬守見宗

○完栗 江戸ヨリ百六十四里

一萬石 本多肥後守忠英

同國時代官

服部左衛門 未吉勲共傳

同國中神社 并 講堂 佛櫓

山陽道八ヶ国

又



伊和大神 完栗郡立

高社の御神、大己貴神

ゆりく高国の二宮云々

春日大神の神 ぬる立

社領二十石

廣峯神社 飾屋郡立

高社の御神、祇園の神

御同体云々

旧記云吉備公入唐の後奉

五年牛頭天王と社所に

移す也

社領七十石余

室の神 室津立

社領三十石

採苗宮

采町立

社領七十石

同社

日十二石

多賀村立

天神

日四十二石

二見村立

同社

日二十石

甲南郡
乃根村立

天王

日二十石

ぬる立

の神

日十石

作保村立

住吉大神の神

日十石

押入谷立

権現

日十三石

山角村立

同社

日十石

傍田立

人丸社

大倉谷立

柿本 人丸の庭也内陳二間
四方の社也 別當

書写山 坊舎三十余ヶ所
一条山 永延三年性空上人乃

建之田教ふところの故く天台

宗之本なる丈六の如來脇観
音西国三十三所順徳観音
寺 二十七番にあたる

大寺

存徳天皇の御宇に當國
書写山に興に建立トシ

一葉と
孝徳天皇六年に法華上人
人建立之在法華寺と云

百二十石天台宗小寺と云

如來山 明名立
右同宗と云 甲三石

八徳寺

曰二十石右同宗

大山寺 明名立
曰二十石右同宗

朝光寺 加東郡立
曰四十石右同宗

海土寺 曰郡立
曰百五十石右同宗

芳光寺 曰五十石右同宗

清水寺

聖徳太子弟剣也本寺
千年観音八幡河乃院
寛治五年光普上人乃

建立西国順礼所廿五番也

天台宗守之ち从六十五石
班鳩也 鴨山立

ち从百三十石右同宗

法花也

空鉢上人建立本寺等所

の千年観音也西国順礼

所廿六番にあつる

八寺

松原村立

ち从六十石言宗守之

五峰也

市南郡立

曰百石右同宗

揖西郡立

酒見也

曰六十石右同宗

光也

松山立

曰十石右同宗

見性也

室津立

曰十石禅宗

播磨之國 明石ノ浦



大日本十二

備中之國 吉備津宮



石宝殿

石振立

二方の方の石のなりでん
 そのまゝにマシるる
 大いし子大いし子

あつた

慈眼寺 三平石古田村

やまの 三平石古田村 小松

石峰寺 七十石山伏

法光寺 三平石山伏 三木

法思寺 三平石津土宗 日所

時元寺 三平石古田村

大寺寺 三平石古田村 網干

同國中名所部

兼水 中乃也 なるこの上乃ささ

世所の正なりと云
ゆめ浦 ほかくとわし一乃

大倉若より十町より西に

松一村より人丸の塚今より

あり彩衣令難の昔に秀徳

ゆめをさるる人の袖を思ふ

と西に凡そくくさきハリイハグ

坂より所をさるる清水の

里ゆめをさるるはら南

那のうら也

世所花衣に宿る世がこの

いかにすもこころちや

野中の流あり 下南の丘所の

赤よりさるるは流ありの流海へ

身も細く流也海なるなり

川を流しては十町より

小野中に流ありは世に流あり

より流あり下南の丘に流あり

山中なるるも凡そくくさき也

友江の浦よりさの浦なり

ゆめをさるるはら南

ゆめ浦

大倉若より十町より西に

松一村より人丸の塚今より

あり彩衣令難の昔に秀徳

ゆめをさるる人の袖を思ふ

と西に凡そくくさきハリイハグ

坂より所をさるる清水の

里ゆめをさるるはら南

那のうら也

世所花衣に宿る世がこの

いかにすもこころちや

野中の流あり 下南の丘所の

赤よりさるるは流ありの流海へ

身も細く流也海なるなり

川を流しては十町より

小野中に流ありは世に流あり

より流あり下南の丘に流あり

山中なるるも凡そくくさき也

友江の浦よりさの浦なり

ゆめをさるるはら南

室津

未申のころ也

二のめ

いこうつらに世より物と云物の

ねとそがとら友とすらん

青山 川の宿より西あり

海乃也宿あり

夏前川 書字山より南乃

くさ也水より南へ流るる

川也

魚の俵 魚乃松魚とも云也

当國と備前ノ標也

尾上の松 言所より福とまり

とりの所へもるる川より

東の流にあり

乃根の松 乃根村と云所より

海をこにある松也カキをこを

ありと枝く四方に日くも

を双の若木也

同國中名物出所之部

飯前 名物也 蜘蛛 名物也

赤目張 名物也 阿古橋

梅葉 津田と云所あり

野里 小鏡 定栗 鉄

同乃金 柳 栗 柱

煎茶 清水抄友小糸茶

掲色深 空消 書字竹

東条 同竹子

山陽乃分國之内

英他國七郡と国東西三百半

英田 勝田 若西 若東

大庭 若久 若崎

知行乃二千八百六十二百石

元徳天皇和明六年備前國ヲ割

置表作ツト云

○津山之城江名ヨリ夏十二里

慶長五年乙巳 金吾中納言木下秋分

日八氣ヨリ十八万六千石 森多氣尾忠政

同 内記長繩

同 伯耆守長義

同 長成

元禄戊寅 為楯石 松平備前守 且富

津山河 二万石 大藏

新田 一万石 同對馬守

同田中神社并 寺院ら 部

中山大御神 古東郡立

為社大己貴命の奈の跡
とく為国の二宮也ト云

八幡宮 津山立

孝徳天皇天平年 勸請ト云

二之宮 二宮村立

後宇多院弘安四年九月廿
所の卿長に告あるにありて

伊勢方所宮と勅遣すと

伊弉諾神 志保郡

五十猛神の奈の跡とあり

山王権現 山下村立

目吉山王の御神と勅遣ト云

親耆也 津山立
正親町院元龜年中 系刺
本より十一面親耆と云守之

吉祥院 日所立

大庭立

家山源也 大庭立

長福院 備に立

安楽寺 勝田郡立

阿弥院 津山に立

後小松院 應永年中建立
本寺の跡院の寺像海土宗

西光院 山岩井に立

正法寺 若東郡立

同國中名所之部

久米更山 若狭や久米の更山さうくも
名所ありとて一万余ありて

宇那松森 志保

涼壽 備前山 縁る西地

坊田地 以外田記にのする

名はありとて久も立は
不分明

同國中名物出所之部

橘硝 田硯所より出
生木 敷珠に用らるる國産
生寺より出

山陽乃々國之内

備前國十郡中上國四方余
小碓 初氣 磐梨 邑久

赤坂 上道 御野 小豆
津言 見碓 大碓

知行二百八万六千二百石

○墨山之城 江戸より百五十里

宇喜田 智光 真家

同中納言 秀家

慶長五年ヨリ 金吾中納言 秀秋

同七年 逝去

同八年以後 池田 三左衛門 輝政

池田 輝政 次男

同 松平 茂 叔 督 忠 継

同

元和元年ヨリ 同 宮内 少 輔 忠 雄

寛永九年 嫡子 相模 忠 光 仲

代 因 氏 多 取 所 督

寛永九年ヨリ 松平 新 大 郎 光 政

同

當 城 主 松平 大 炊 頭 繼 政

○新田 江戸ヨリ 百八十五里余

二万五千石 池田 信 清 守

右ノ内

一万五千石 同 丹 波 守

同 四 中 神 社 并 寺 院 之 部

東 照 宮 墨 山 立

下 野 四 日 光 山 東 照 宮 勧 請

す 所 也 別 當

社 於 千 石 利 光 院

八 幡 宮 墨 山 立

當 社 八 幡 長 年 池 田 氏 建

立 下 云 今 亦 作 所 同 体 也

神 所 同 所 立

伊 勢 方 内 外 の 所 神 々 勅

後 の 所 也

石 上 神 社 未 改 郡 立

酒折神社 邑久郡立

日本武尊の遺跡ト云

小徳の神 小徳立

後名羽院文治三年建立

素盞盞神ト云

金山立 三野立

ちん百六十石

安楽院 長山立

禪宗寺々

正法寺 小松立

大日宗

蓮城立 長山立

法華宗南寺、光嚴院の

御堂目秀上人建立ト云

妙受寺 大溪村立

大日宗

小徳

彼らよりある小徳の徳云

ゆきゆき考ふらるる

菟戸の後 琴の浦牛窓

虫の津戸以外日記にの

する名所ありと云

其所ありと云

同國中名物出所之類

海月 海糖 奥 自臭 籾

苔 菘 戸 苔 川 鱧 牛窓 イカ

下津井 夕 登浦の自落 藻

燈物 利能等也 長山素系 麵

山陽乃及ヶ国之内

海軍國九郡大上国東西三日余

都守 窪田 下 部

後小田 仔月 齋田 三郎 徳

知行ち二十万七千八百九十石

○松山之城 江戸ヨリ

六万五千石 元禄二年ヨリ 池田倭中ち長幸

同 出羽守

寛永十六年ヨリ 五万石 水谷俤執ち勝隆

奥城主 石川宗重郎總慶

足壽 江戸ヨリ 七十八里

二万五千石 本下肥後ち曾定

○川部 江戸ヨリ 百八十二里

二万石 伊波民部

同国清代官

西山六郎共徳

同国申神社并寺院之部

吉備津宮 キヒノミヤ 吉備中山立

推古天皇元年 奉高田園に蹟

あり 孝灵天皇三世の所子

吉備津武彦命也ト云

社領百六十石 松山立

松山の神 後光厳院の御宇建也

事代主命 コトシロノミコ あり

八幡宮 吉川村立

宇作御同体也

富士権現 奇跡立

当社ハ天文年中 菅原乃

とあり 勅使也

茶原ち 松山立

後花園院の御宇建也

本名茶原佛 言宗守之

金剛院 日所立

大日宗

大林院

禪宗寺々

日所立

阿弥院

浄土宗寺々

日所立

西光寺

天台宗

後立

源宗院

天台宗

中田村立

同國中名所之部

吉備中山

キニシナカヤテ

は山は後若中乃

さうい吉備津宮とくは山尾

と居と移らうく二つをさう

細谷川

は川吉備の中山

の邊にあり

備後之國酒折大明神



備後之國酒折大明神



細谷川のほとり
二万里 板倉の所の所宍
あり海乃也 言海津宮より

西也
四洞物をこよわらせかき金

二方の里へすたひにたり
長田山 炭あり二万里ちり

為政好居のうに
さしやのモロトクにえあるぬ也

名田の山乃さのいす月を
神徳 南徳山 竹乃里

ち金山 松山 三コトノ里

同名物出所ら類

小浦紙 漆 煮り 柳ヨリ
帝釈天 島山 ぬめ

山陽乃八ヶ國之内

倭後國十四郡中上國 東西

安郡 津津 神石 二河

沼隅 不活 菅田 上窟

四箇 惠模 世死 三魚

甲奴 三上

知行者二十三万八千八百九十石

○福山之城 江戸より百五十町

慶長五年 福徳左衛門大吏正則領

元禄五年 十五石 水野日向守勝成

古代新城也

日向 日向守勝俊

日向 日向守勝負

日向 日向守勝慶

古棟至 十五石 阿部伊勢守下等

○三次 江戸より二百七十里

五万石 浅野右兵衛

○三魚 江戸より

上田主水

松平安藤公の家来也此使

其是地も領分也至る

同國神社并寺院之類

船主大御神 鞆之立

当社の猿田彦彦乃番跡

正曆元年 河津社建立

吉依津宮 府中ニ立

倭中四吉依津宮併同体也

八幡宮 福山ニ立

白河院 正保年中 宇佐所

神と勅使すとのあり

若宮権現 神石郡ニ立

稻荷の神也 後保祿の院

乃所より 院宣のとりあり

社建立 之下云

惣社神 惣社村に在

大己貴命也といひ

不動寺 福山に在

当寺に慶長六年乃此福徳
氏正則建之末より不動の
寺の像也と言ふ宗守之

福寿院 三原に在

大田宗

宝海寺 福山に在

禪宗

如來寺 日所に在

浄土宗

吉祥院 中山村に在

大田宗

妙光寺 三上郡に在

法苑宗

同國中各所之部

鞆の浦 宝野

尾の乃にちり 尾の乃に

東西に遠き宝野也小方山
南に海也宝野より北に

旅神て月津に鞆の浦

宝野にぬぬこの名は
家語の傍 府中にあり曰

名奥分はよもあり

藪山 風る浦 未祥也

同名物出所之部

身表 柳ヨリ 菅竹 矢野

尾切編笠 田代朝

山陽分々箇之内

安藝國八郡天下國南小三軍

沼田 石田 巻田 砂田

安養 佐伯 安養云々の宮
知行石二千五万九千三百八十石

○廣瀨之城 江戸ヨリ二百七十里

毛利右衛門輝元

甲九万八千石

慶長五年 福徳左衛門天文正則

甲二万六千石

元和五年 浅野但右衛門長晟

甲二万六千石

松平安忠氏也光晟

外五万石見込中同格也長治配分

同日 同 弾正天駒細晟

当城主 同 安養親也吉長

同国中神社并寺院之部

岩瀨大御神 伴津久保也

当社の御神ハ松尾御同体

推古天皇三十二甲申年十二月

始々御殿造営其後平

清盛再興其弘治二年の

比治晴賢滅亡の時兵火又

の御社大に元就建百八十

の御高あり 社人守之

社領 安養云々

地御前 安養云々

岩瀨御同体之御舎にて

六月十七日の夜、法久が

より御輿舟ありて、舟の

埃宮 同郡也

神武天皇つくり御征伐

の御所ト云々

八幡宮

廣徳

正親町院の御宇元龜年中
中建之宇佐御日体之

天満宮

日所

為社、建武元年、後宣の
一とあり、御社建之云

観音寺

日所

志立寺

竹林寺

桓武天皇の御宇建之入

勅祭、再山行基号、皇山

崇法法院

古田

禅宗

海禅寺

廣徳

古田宗

湧泉院

後山村

古田宗

如來寺

廣徳

津寺

同國中若所之部

散敷池

井又天の社あり西

西、遠、浮也、は、ま、ま、こ、い、

田、席、の、ト、ヤ、ク、ク、ク、

は、所、む、い、い、い、い、い、い、

と、め、神、は、徳、の、お、か、し、徳、の、為

禱、る、あ、い、い、い、い、い、い、

たり、い、い、い、い、い、い、

小方里

木の徳

同名物出所之部

旗子

高松の徳

水具

雷作

蒲前坊亭 野海浮翹

西條柿 杉城山葵 諸口紙

山陽及分国之内

周防國六郡中上国東西三司

大鴉 珠琴 然多

船名 佐波 吉敷

知行三十一万四千四百二十石

○徳山 戸ヨリ二百五十二里

五万石 毛利 飛彈守元次

○志國 延文三年四月十一日 高内彦助廣紀 六万石余

播磨宮 朝倉 立

法和天皇の御宇 貞觀元年

立行宮 御勅後之 作と

御曰体也 山内 立

祇園神社 山内 立

ト都の兼右勅後之り大内 是我眞の具也ト云々

玉祖大御神 佐波郡 立

尚乃一宮也ト云々 後鳥村 立

任吉御神 伏見院の御宇 永仁年中此

所の郷に 養中乃 告りて

勅後之りト云々 山口 立

菅原并堂 室積 立

海中より出ありト云々 徳山 立

福壽院 徳山 立

真言宗 同所 立

神宮寺 大日家

海峯院 大徳郡 立

後之り安院 弘安年中に

弟創 禪宗守之

岩園寺
右宮
岩園に在

同国中山右所之部

岩園

岩園

ひろせ丸海をこ也昔岩園寺
の堂ありて其の景也依
竈をたてしこの景と云

ひろせ丸をたてしこの景と云

岩園山

安藝國に在り

より海と云云をり西
に小方より岩園より小山
なり河越くとも川と云
西より岩園のうら也を也
川より南へ大山ありこを也
岩園山と云海をこといは
るまのうら也

岩園の岩園山と云

岩園のうら也

岩園 大橋 可良浦

岩園浦

曰名物出所之部

岩園紙 相魚紙 多子紙

ウレシ

山にの結麻子

岩園紙

湯田二月筆

山陽八ヶ園之内

長門國六郡中上國東西二百

厚校 岩園 員祢

大津 阿長 見橋

知行する十三万四千五百石

○萩の城江戸より二百五十九里

慶長五年三月也利石の及輝元

三万石
曰る 松平長門守秀直

曰る 曰大膳大守細廣

高城主 曰大膳大守

右萩願之百曰民の大浦

二万石 也利権三郎

長寿 江戸ヨリ二百六十里余

五万石 也利甲斐守无輝

同園中神社并寺院之部

任吉天の神 豊浦郡

神功皇后十一年為園多浦

の京に委跡也社乃上棟

伏見院永仁二年八月五

日ト云ク

八幡宮 龜山立

清和天皇貞観元年に勃

後行教和尙修之祭九月

十五日也
和布疋の神 下ノ里 赤同立

尚社の祭毎年十二月廿日

の若生に和布よりし海

底なるりよ社人分也

天満宮 萩立

所し宰府乃天神と勃

後乃所ト云

神宮也 曰所立

後寺所門院所乃文の

年中建立之云宗守之

親者也 曰所立

本より十面親者也宗守之

光徳院

長府ニ之

桓武天皇の御宇に於て剣瓦山
空海ト云々古曰ク小寺トク

月松院

見徳ニ之

後深草院の御宇に室法元
年建立禪宗

長示ウチ曰ク中川村ニ之

阿弥院也

下野ニ之

高寺に安徳天皇の御宇に
外平氏一統の御像也

同世中名所之部

安武の松島 高田の小安

武の郡にあり初よりさ松

島也世俗にわんの郡ト云

い流々ト云々ぬわの松島

高田の府中也宮

あまの皇居の社檀ハ南向也

東西に遠干浮あり奥津

平津ト云々浮二つあり干珠液

珠の二珠と納ありト云

赤間 信以下乃雲ト云

門司 此所に祝切石あり

海名也 祝切石の細長はのこまき

うすく書をすまのむか

昇井浮 云散信

同右物出所之部

焼物 茶碗水持 神等也 萩ト云

長登 録青 素麵 長府也

下野 雛 蛸 横首 美真カ

大日本書紀

トラキスリリ 門司宮との所より

紫祝 コイシ 所より

其石 イシ 所より 幸より 採取

石炭 イシスミ 舟木と云 所より 薪灯に用

白津 カヅク 奥 ノリ 所より 人の心

白津 カヅク 奥 ノリ 所より 人の心

吉見川 ヨシミカハ 搜 ソウ 籍 セキ

三浦貝 ミウラガイ 大船の

卷十二終



